

大草谷津田いきものの里 自然観察会

春の香りを楽しもう

太田 慶子（千葉市）

日 時：2025 年 4 月 20 日（日）10：30～12：00、天候：曇り

参加者：17 名（大人 11 名、子ども 6 名）

担当指導員：太田慶、田島正、撮影担当：相吉 参加指導員：岡田、木下

スタート前に、蕎麦味噌、蕎麦の煮たもの、山椒の実を持参して、味わってもらったりしました。始めに、「植物は虫に授粉してもらうために、いい香りの花を咲かせたりしますが、逆に葉っぱは虫に食べられると光合成できなくなるので、虫がかじるとイヤな匂いを出したりしているのがあります」と、香りは植物の生き残り戦術の一つと話しました。

ペットボトルに入れておいた“〇〇の葉”を嗅いでもらって、「この近くにある木の葉です、捜してみてください」というと、そばの木の葉をちぎって「スギの葉」だという声。「実はヒノキなんですよ・・・ヒノキ風呂っていうでしょう。ヒノキはいい香りがしますね」からスタートして、森に入ると足元にドクダミがあります。ドクダミはやはり臭いと。そばにはミツバがあり、これはいい香りです。

ふつうの木に見えるチャノキ（茶の木）あります。葉っぱをちぎってもあのお茶の葉って感じがしません。蒸してそれなりの過程を経ないとおいしく飲めないのですね。

入り口で食べてもらった実の親？である、サンショウの木があり、葉っぱをちぎったり、手のひらに乗せて叩くと、皆さん、「いい香りだ！」とうっとり。鰻が食べなくなる？

フキが群生しているところへ行く前に、ヤエムグラがあり、服にくっつけて見せると、子どもらは喜んで自分の服につけてみます。フキはちぎるといい香りがします。臭いはず？のクサギやニワトコの臭いを嗅いでもらったのですが、中には「いい香り」という家族もいて、「うちはパクチーが好きだから」と・・・香りの好き嫌いにもけっこう個人差があるようです。

谷津田に出ると、ニガキの若木があり、「どなたか木の葉を試食してみてください」と言うと、噛んだ方がしばらくして、「苦い！」と言って、お茶を飲み始めた。（飴玉を用意しなくてすみません！）「では、この木はなんていう名でしょう？」と言うと、「ニガキ」と言う声・・・「その通り！」

ヤブニッケイの葉はちぎると皆さん、「う～ん、いい香り」と。水辺に下りて、ショウブの葉をちぎります。「増えすぎて困るので、持って帰ってもいいですよ」と。

ウワミズザクラがちょうど見ごろ。「このガマの穂状の白い花もサクラの仲間なんですよ」と言って匂いを嗅いでもらうと、杏仁豆腐のようないい香りがします。花に虫が止まったのを網で捕ったら、羽化したばかりのヤマサナエでした。「希少なトンボですから、よくみてください」と回します。

田の縁にあるスズメノテッポウで、草笛を楽しんで終わりにしました。



どんな香りがするかな？

